

謹賀
新年



いわき市

農業委員会だより

編集・発行 いわき市農業委員会

2017

平成29年1月1日発行

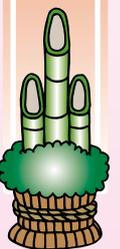
No.173

〒970-8026
いわき市平字堂根町4-8
TEL.0246(22)7534
FAX.0246(22)7538

家内安全、五穀豊穡の祈りを込めて



年頭ごあいさつ



いわき市農業委員会
会長 鈴木 理

あけましておめでとうござ
います。

皆様には、御家族お揃いで
お健やかな新春をお迎えにな
られたことと心からお慶び申
し上げます。

「春よ来い、早く来い」、「春
が来た、春が来た、どこに
来た。山に来た、里に来た、野
にも来た。」と正月になりま
すと、こんな唄を口ずさみ
春を待ちわびる想いを抑えき
れない嬉しい、楽しい気分で
正月を過ごしてきたような気
がいたします。

しかし、近年の農業・農村
を取り巻く情勢は大変厳しさを
増し、多くの諸課題に我々
農業者は日々悩まされており、
無念でなりません。

元来「農」は国民に食を安
定供給する役割を担い、国の
根幹を成すとともに、地域の
伝統文化と人の豊かさを育む
ことができるものであり、農
業者は、自らの生活の基盤と
する農地を先祖より受け継ぎ、
地域住民の連携により耕作・
保全して活用して参りました

が、農業者の高齢化や担い手
不足、さらには原子力発電所
事故の影響と、農業改革の名
のもとに推し進められている
現場意見と懸け離れた農業関
連の法改正等がさらなる追い
打ちをかけ、地域農業・農村
社会の維持・継続が困難にな
つてきております。

そして、米国は、次期大統
領トランプ氏の出現により、
TPPからは脱退表明する一
方で、二国間自由貿易協定交
渉を強く迫ってくる恐れがあ
り、益々先が見えない農政に
なつてきております。その一
方で日本政府は、TPP重視、
地球温暖化対策のバリ協定批
准を後回しにする政策を取っ
てきました。昨年の夏の台風
発生、11月中での積雪を見れ
ば、温暖化対策の重要性は誰
でも注視するところです。日
本の国土保全を担ってきた小
規模農家を含む稲作農家を、
地球温暖化対策と併せて、農
村社会対策として軸足を置く
べきと考えます。農業力を一
考して頂くためにも、私共は
皆様方に信頼される農業委員
として行動して参りますので
一層のご指導を賜りますよう
お願い申し上げます。

何と言っても、トランプ遊
びの「ババ」引きに遭わない
ように。

平成28年度「農地等の利用の最適化の推進に関する意見等」



清水市長に意見等を手渡す鈴木会長(前列中央)

農地等の利用の最適化の推進に関する意見

- 1、農業生産基盤の整備推進
 - ① 基盤整備の重要性に鑑み、期間を限定した集中的な市独自の受益者負担の軽減策について検討を進める必要がある。
 - ② 補助率が高い国県事業の要件(大規模集積)を満たすことが困難な中山間地域の基盤整備を推進可能

農業委員会では、昨年10月12日、鈴木会長ほか役員5名が、「農地等の利用の最適化の推進に関する意見等」を清水市長に提出するとともに、蛭田市議会副議長へ、意見内容の実現に向けた支援を要請いたしました。

この意見等は、平成28年4月に施行された改正農業委員会法により、「農地等の利用の最適化の推進」が農業委員会の必須業務に位置付けられたことに伴い、従前市長に提出してきた「建議」に替わるものとして今年度から市長に提出するもので、農政振興部会の農業委員24名を中心に審議・作成したもので、その概要は次のとおりです。

な市独自の施策の構築が必要である。

- 2、担い手支援策の構築
 - ① 水や草刈りの管理を地域全体で担うシステム作りや導入負担の大きな農業用機械の共同利用など、地域全体で担い手を支援する共助の仕組みの構築を検討する必要がある。
 - ② 日本型直接支払制度など既存の枠組みについても、その方面に誘導

・特化することが望まれる。
 3、農業後継者の育成・確保
 既存の国県事業の活用のみでは不十分であり、強力な支援策として、市独自事業の構築と手厚い予算配分が必要である。

4、人・農地プラン作成の推進
 強化
 人と農地が抱える様々な課題に取り組みにあたり、各地区における課題や目的の共有が肝要であり、地区の理解や協力を十分に得るための下地づくりとなる手段として、人・農地プランの作成が有効であることから、具体的な補助制度の活用計画等がなくとも、全市的にプラン作成に取り組みが必要である。

5、守るべき農地、守れる農地の選択と集中
 現状を維持するための人的資源も限られていることから、人と農地の最適化を念頭に、守るべき農地、守れる農地の選択と集中を実現するため、今後作成・見直しが予定される各種行政計画等では、単純な数量の確保・維持等ではなく、実態に即した現実的な視点が必要不可欠である。

農業振興に係る支援及び予算確保等に関する要望

- 1、イノシシ被害対策の拡充
 【重点項目】
 鳥獣被害対策には、侵入防止対策、

個体数の調整、周辺環境の整備が重要であり、これらを適切に実施し、総合的な対策を強化する必要があることから、各種施策の継続と拡充を要望する。

2、放射性物質吸収抑制資材の散布支援の継続【重点項目】
 水稲への放射性セシウム移行を低減するカリ質肥料の施用により、安全・安心な米が出荷・流通されているが、放射性物質は農地に残留し続けているため、今後も継続した取り組みが必要のため、既存事業の継続と散布による土壌や生産物に与える長期的な影響調査の実施を要望する。

3、風評被害対策の継続と強化
 【重点項目】
 農産物の価格低迷をはじめ、未だに風評による苦しみが続いており、農産物の価格回復など、農業再生の取り組みとして今後も引き続き風評対策は必要であることから、既存の取り組みの継続と強化を要望する。

- 4、6次産業化の推進と生産振興策の拡充
- 5、森林再生に向けた取り組みの推進
- 6、福島大学への農学系学部設置の早期実現
- 7、農業委員会法改正に伴う組織等見直しと関連予算の確保

今号の表紙から

昨年は、連続して発生した台風・天候不順による日照不足等で農作物の収穫が心配されましたが、市内においては被害も比較的少なく、無事、実りの秋を迎えることが出来ました。しかし、震災と原発事故による風評被害、農業者年齢の高齢化と後継者不足に伴う耕作放棄地の増加、鳥獣被害の増加等、我々を取り巻く環境には多くの問題があります。

私たち農業委員は、農業者の代表として活力ある農村社会を目指し、皆様と問題を解決しながら一歩ずつ歩んでいきたいと思えます。今年も宜しくお願いいたします。今号の写真は、「家内安全、五穀豊穰の祈り」を込めて、各地の正月行事の様子を掲載しております。



- ① 初日の出(湯ノ岳より)
 - ② 初詣(白水阿弥陀堂)
 - ③ 金刀比羅神社例大祭(常磐関船町)
 - ④ 酉小屋(遠野町深山田地区)
- (執筆・撮影 瀬谷 弘 委員)

がんばる農業者 あの人この人



い つ ま た し ゅ う
四倉町細谷地区 **新妻 太十さん(83歳)**

新春を迎え、年始めに相応しい人物として、人生の大先輩であり現役の農業者として頑張っている四倉町細谷地区の新妻太十さんにお話を伺いました。

新妻さんは、かつては細谷青年団の中心メンバーとして活躍し、現在は次世代への先達者として重責を担っています。長らく小川江筋土地改良区副理事長や農業委員等、数多くの要職を歴任されてきました。また、自らは稲作・野菜・果物等の栽培をしており、イチジク部会の初代会長も務められイチジク栽培に力を入れております。

いわき市のイチジクの栽培面積は約8ha、出荷量は約70



毎朝5時半から朝採りしている新妻さん



選別前の朝採りしたイチジク



実は「無花果」
花を咲かせずに実をつけるように
見えることに由来します



葉は、三裂または五裂状になっています
※上記4枚の写真は、平成28年10月に撮影

tで、四倉町・久之浜町・平夏井地区を中心に栽培され、県内でも有数の産地となっております。もともとは、平成2年の減反政策により転作作物として導入されたのが始まりでした。生産地が都市近郊であるメリットを活かし、朝採り後にすぐにJAに出荷し、その日のうちに店頭に並ぶようになっていることで、鮮度の良いイチジクを消費者に届けるようになっているとのこと。収穫は8月から11月中旬の約3ヶ月間で行いますが、今年も天候不順で生育管理が難しくなったとのこと。今年も放射能検査の結果も何ら問題は無く、実は小ぶりでも糖度は十分にあり、多くの人に食べて頂きたいとのことでした。

イチジクは、昔から葉や嗜好品として重宝がられ、多くの農家の庭先には柿の木やイチジクの木がありました。しかし、時代が変わるにつれ忘れられた果物の感もありましたが、近年の健康志向の影響もあり、現在ではいろいろなレシピも開発され人気を博しているようです。イチジクは栄養価が高く、抗酸化物質を多く含み、細胞の老化の防止・更年期障害予防・前立腺がん等のがん予防にも効き、便秘解消の効用があるそうです。あるテレビ番組内でアフリカで撮影したワンシーンのなかに、イチジクの高木に動物達が群がっていた様子が映し出されていたのは印象的でした。なお、原産地はアラビア半島付近とされ、現在ではトルコが世界一の生産量を誇っています。なお、私事ではありますが、パンに練乳付き甘露煮イチジクを挟んで食べるのが、とてもおいしいです。

これからも、愛情を込めて作ったおいしいイチジクを消費者の方々に提供いただけるよう、新妻さんには頑張っていたきたいと思います。(執筆・撮影 愛川卓司 委員)

◆◆◆◆◆ 平成28年 ◆◆◆◆◆

いわき市市政功労者表彰(産業功労)受賞

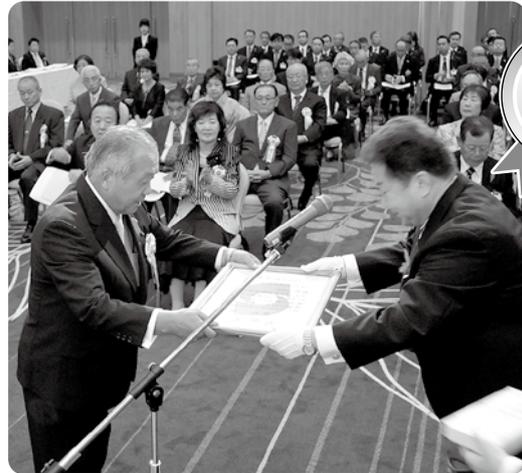
去る10月1日(土)に、市政発展への顕著な功績が認められ、農業委員会の鈴木理会長と草野庄一会長職務代理者が、平成28年いわき市市政功労者(産業功労)表彰を受賞されました。



受賞

草野 庄一会長職務代理者
(産業功労)

平成11年7月に農業委員会委員に就任(6期)、16年余にわたり農業者の代表として農地法の適正な運用に努めるとともに農家の指導・育成に尽力し、この間、農業委員会会長職務代理者を3年務めるなど、地域農業の振興発展に寄与されました。



受賞

鈴木 理会長
(産業功労)

平成11年7月に農業委員会委員に就任(6期)、16年余にわたり農業者の代表として農地法の適正な運用に努めるとともに農家の指導・育成に尽力し、この間、農業委員会会長を7年務めるなど、地域農業の振興発展に寄与されました。

また、現在、福島県農業会議副会長を務められるなど、福島県下においても尽力されています。

平成28年度.....

福島県下農業委員会大会

去る11月8日(火)、福島市飯坂町「パルセいいざか」において、一般社団法人福島県農業会議主催による「平成28年度福島県下農業委員会大会」が開催され、県内市町村の農業委員・農地利用最適化推進委員をはじめ、関係者ら約千人が参加し、当市農業委員会からも、31名の農業委員が参加しました。

当日は、情勢報告として「農業委員会を取り巻く情勢について」と題し、一般社団法人全国農業会議所農政・担い手対策部次長 阿久津 正氏の講演があり、「農業委員会法の改正」や「平成28年度農林業関係税制改正」、「TPP大筋合意を踏まえた農政改革の推進」等について、説明がなされました。議事の内容については、議案である「ふくしまの農業の創生に関する農業政策について」、「改正農業委員会法の下での活動推進に関する申し合わせ決議について」及び緊急動議である「TPP対策について」が原案どおり採択され、県内全ての農業委員会が一致団結し、国県等に働きかけていくことを決議しました。



農地流動化情報

Vol.32

農業委員会では、耕作を目的とする農地情報の収集・提供を行っています。売買・貸借等の意向がある方は、是非ご相談下さい。

■貸したい

No.	農地の所在地	地目	面積(a)
1	平上高久字高田(2筆)	田	8.99
2	平下高久字荒久(1筆)	田	27.40

ご覧になって、手続き等の詳細を知りたいという方は農業委員会事務局までお問い合わせください。

※今回掲載した農地以外にも
売買・貸借等の意向がある方は、是非ご相談ください。



【お問い合わせ】

農業委員会事務局 農地調整係

0246(22)7578

■売りたい

No.	農地の所在地	地目	面積(a)
1	平上高久字神下(3筆)	田	49.64
2	平上高久字神下(1筆)	畑	3.00
3	平下高久字荒久(1筆)	田	18.31
4	平赤井字四の町(1筆)	田	30.18
5	小名浜南富岡字真石(9筆)	田	98.05
6	小川町上小川字後原(1筆)	畑	8.55
7	小川町上小川字北赤沼(2筆)	畑	3.40
8	小川町上小川字赤沼(3筆)	畑	7.11
9	小川町上小川字石橋(1筆)	田	24.70
10	好間町小谷作字小谷作(1筆)	田	18.45
11	好間町小谷作字石名(2筆)	田	5.04
12	好間町小谷作字腰巻(2筆)	田	29.29

農地 Q&A

農地の盛土・切土について

A

農業委員会への手続きが必要になります。田を畑にして耕作をしたい方は、農業委員会へ「農地改良工事届出書」を届け出る必要があります。

Q

農地を盛土して、田から畑に改良したり、農地の質を改善するため、良質の土を入れるのに手続きは必要ですか？

ただし、農地に土を山積みしたまま長期間置く場合等は、農地法第4条または第5条の一時転用の届出または許可が必要となる場合があります。対象地域については、市街化区域や市街化調整区域内の農地を問わず手続きが必要です。なお、残土等の処分のみを目的とした土砂等の搬入は認められません。手続きをしないで無断で盛土した場合や農地以外に転用した場合には、法律により罰則が適用されますので、ご注意ください。

【農地改良工事届の手続き】

●届出者

農地改良工事を施工する方(農地の耕作者)

●届出時期

工事着手前(受付は随時行っております)

※内容の審査に数日を要しますので、着工予定まで余裕をもって届け出てください。

●書類

農地改良工事届出書 1部

●添付書類

土地の登記事項証明書、公図の写し(隣接地含む)、案内図、地元区長の同意書、工事計画図面(平面図及び断面図)、誓約書、現況写真(着工前)

●確約事項

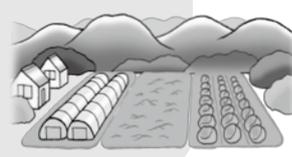
①盛土には、耕作に適した良質土のみ使用し、廃棄物の処理及び清掃に関する法律(昭和45年法律第137号)第2条第2項に定める一般廃棄物及び同条第4項に定める産業廃棄物を盛土しないこと。

②工事施工により損害、被害が生じた場合は、届出人の責任において善処すること。

③工事完了後は、農地として有効利用すること。(誓約書を添付)

●報告

農地改良工事届出者は、農地改良工事届出書に記載された工事完了後10日以内に、農地改良工事完了報告書(改良工事完了後の写真添付)を農業委員会まで提出することになります。



【お問い合わせ】 農業委員会事務局農地調整係 (0246-22-7578)



農業者年金に加入しませんか?

毎年、農業委員会では、農業者年金の加入促進運動を実施しております。今後の活動としては、1~2月を強化月間として活動を行う予定です。私も、妻とともに農業者年金に加入しております。そこで皆様に、農業者年金について改めてご紹介したいと思います。

《加入要件》

- ①年間60日以上農業に従事
- ②20歳以上60歳未満の方
- ③国民年金第1号被保険者(保険料免除者を除く)



《農業者年金の特徴》

- ①自分が支払った保険料とその運用益により将来受け取る年金額が決まる積み立て方式で、少子高齢化に対応した年金です。
- ②受給期間は終身です。もし、80歳以前に亡くなった場合でも、80歳までに受け取るはずだった年金額の現在価値相当額が遺族に支給されます。
- ③支払った保険料は、全額社会保険料控除の対象になるので、所得税や住民税の節税につながります。
- ④通常、保険料は月額2万円ですが、最大6万7千円まで、千円単位で自由に決められます。
- ⑤認定農業者等一定の要件を備えた担い手には、保険料の国庫補助があります。

以上、主だった内容をご紹介しましたが、老後の備えのためにも、一度ご検討されてみてはいかがでしょうか？
詳細を知りたい方については、農業委員会事務局までお問い合わせください。
(執筆 小泉 昌男 副委員長)

農家のための情報誌

全国農業新聞の購読をあなたも

発行…… 毎週金曜日(月4回)
購読料…… 月700円
申込先…… お近くの農業委員 または農業委員会事務局
電話…… (22) 7534

編集委員

佐藤 哲男 委員長・小泉 昌男 副委員長
渡邊 雄八・瀬谷 弘・愛川 卓司



第19回三和の里フェスティバル

今回ご紹介するのは、去る10月23日(日)に三和町のいわき市地域交流センター三和ふれあい館で開催された「第19回三和の里フェスティバル」の内容です。

平成8年の第1回開催以降、東日本大震災が発生した平成23年と悪天候により中止となった平成25年以外は、毎年開催されています。秋の収穫時期に合わせ、三和地区の関係団体等が一同に会し、来場者との交流を深めながら、物産の展示販売や地域活動を紹介します。三和地区の特色を生かした多彩な催しを通じて、三和の里のPRや交流人口の拡大を図りつつ、地域の活性化と産業・文化の振興を図ることが最大の目的であるとのことでした。



いわき上三坂やっつき踊りの披露

き踊り保存会によるやっつき踊りの披露からスタートし、会場内では、「ふれあい産業まつり」として地区の企業や商店及び商工会青年部・女性部など10店舗による、射的、焼きそば・すいとん、揚げ餅、エゴマケーキ、地元食材によるアップルパイ、イカ人参等の販売ブースが設けられ、来場者はそれぞれの味を楽しみながら会場内を巡っていました。また、三和町ふれあい市場、大友農園等の出店もあり、おこわ、漬物野菜ジュース、カボチャ、サツマイモ、乳製品(牛乳・ヨーグルト)、リンゴ、リンゴジュース、サクランボジャム、桃ジャム等の販売ブースが設けられ、沢山の人がでびき盛況が見受けられました。



展示された発動機の運転風景

特別企画では、三和地区交通安全対策協議会による交通安全防犯フェア、消防署による消防展示・体験コーナー、地域包括支援センターの高齢者相談・健康チェックや、木工クラブ体験等が行われ、いわき市平飯野発動機愛好会による昔懐かしい農業機械として活躍した発動機の展示・運転も来場者の目を引きました。体育館では、各団体による、日本舞踊・民謡・体操・ダンス・太極拳等の披露、民話の朗読、永井保育所の園児・三和小学校の児童(4年生)による三和太鼓の披露等、内容盛り沢山の発表会もあり、終日賑わいを見せました。

当日は、秋晴れの好天候であり、三和町老人会による多彩な力カシの展示と水石花卉組合による、ゴージャスな菊花の展示がイベントの一層の華を添えることとなりました。入場者は、震災直後は落ち込みがありましたが、各種広報や口コミ等の成果の表れか、毎年右肩上がりが増加し、今回の来場者数は、昨年より約20%アップの1300人ほどになりました。市の地域振興担当員も「大変喜ばしいことで、震災復興と風評被害払拭に一役買ってもらえれば」と話されています。

(執筆・撮影 佐藤 哲男 委員長)



子供達による三和太鼓の披露

編集後記

平成29年の新しい年、今年には東日本大震災、福島第一原発事故から6年目を迎えます。今でも風評被害が続く、復興がままならない状況が続いています。昨年は、大きな衝撃が走った4月の熊本地震をはじめ、各地で発生した地震や停止中の原発再稼働問題について頻りにニュースが飛び交いました。また、農産物については、秋以降、野菜等の値上がり状況が続いています。

県内においては、避難指示区域(居住制限区域)の解除が一步進み見通しです。また、米・韓国での政権の行方やTPP問題はどうか進むのか等、不透明感が漂う中で、予断を許さず見守るしかないのでしょうか？

さて、今年はどうなる年になるのでしょうか？また、どういう年にするべきなのでしょう？まずは、振り返られずに己の信ずべき道を進むしかないのかもしれないですね。いずれにしても、農家にとってはこれまでよりは良い年にしたいです。

(執筆 渡邊 雄八 委員)